

## ただ、ひたむきに。そこに強さがある



「浜松・東三河フェニックス」は、2年連続日本一を勝ち取りました。その強さの理由は、単にバスケットのスキルが高いからではありません。「フェニックス」とほかのチームとの差は、スキルよりも、バスケットに対する“ひたむきさ”だと思っています。ボール一つに対する執着心、小さいミスをしまいとする集中力、仲間を気遣う心…。それらは、格好良さというより、むしろ泥臭さかもしれません。でも私たちは、そんなひたむきに頑張る姿を、観客の皆さんに見てもらいたいです。

ただ、ひたむきにやる。  
それが、私たちの強さです。

正直、練習は厳しいですよ。でも、試合より練習の方が辛いと思えるくらいの方が、私は良いと思うんですけどね。

## 伝えたいのは、人として大事な心

私たちは、市内の小学校や中学校を訪問してバスケットの指導をする「クリニック活動」にも取り組んでいます。子どもたちと触れ合いながら私たちが教えているのは、バスケットの技術よりも、もしかしたら、人としてのモラルや振舞い方なのかもしれません。“あいさつはしっかり”“返事は元気良く”“集合は迅速に”そんな基本的なことを、私たちの姿を見て学んでもらえたらうれしいですね。子どもたちには、プレイヤーとしてだけでなく、自分たちのような大人になりたいと思ってもらえたら最高です。

将来、「フェニックス」に入りたいと願う子どもたちへ。ぜひ、気遣う心を養ってください。大事なものは、相手の気持ちをどれだけくめるか、いかに相手の心を読んだプレーをするかです。それはバスケットに対してだけでなく、学校生活でも言えること。いつも相手を気遣う気持ちを忘れないでくださいね。



## 浜松チームとしての誇りをもって

初めて浜松を訪れたとき、都会だという印象を受けました。一方、自然豊かな浜名湖もあって、私は休みの度に釣りに出かけています。ハゼやタコが釣れるんですよ。それから、なんといつてもうなぎや餃子おいしい！差し入れに、おいしい三ヶ日みかんをもらうこともあったりして…、私もこのまちに住みたいと思います。



“浜松”の名を背負ってプレーすることは、地域貢献の一つであるとも認識しています。今年は浜松市が市制 100 周年ですから、そんな記念すべき年に自分が選手でいられることは本当に運が良い。こういう時期こそ私たちが活躍して、浜松を盛り上げていきたいですね。浜松アリーナでの試合は、チームみんな特に楽しみにしているんです。浜松の皆さんは盛り上げ方が上手で、気持ち良くプレーができますから。

大きな声援が、私たちを燃えさせてくれるんです。

浜松の皆さんには、地元チームが2年連続日本一になっているということを知っていたき、ぜひ興味を持って、会場に来ていただきたいですね。



bj リーグ 2011-2012 シーズン「浜松・東三河フェニックス」新チーム

岡田選手は現在、5月の復帰を目指し怪我の治療に専念しています。